

令和2年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川堆肥センター
所在地	下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地 1 7
指定管理者	名 称 山口県酪農農業協同組合
	代表者 代表理事組合長 原田康典
	住 所 下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地の 3
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、運営会議、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後指定管理者の選定に用いた選定基準等に表示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所建設農林課
	T E L : 0 8 3 - 2 8 7 - 4 0 0 8
	E - m a i l : kgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標:施設の堆肥原料搬入量

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	合計
目標値	1,400	1,400	1,400	1,400	900	6,500
実績値	1,272	1,140	945	708	357	4,422
差	△ 128	△ 260	△ 455	△ 692	△ 543	△ 2,078

平成25年度までは堆肥原料搬入量1,400トンを上回り目標を達成していましたが、平成26年度以降は目標を達成していない状況です。実績値の推移については平成26年度以降ほぼ横ばいを維持していましたが、平成29年度以降減少が続き、平成30年度以降は畜産農家の廃業の続出等により、更に落ち込み幅が拡大しています。このような厳しい農業情勢の中、堆肥原料となる畜産農家の家畜排泄物の受入量を増加傾向に転じるのは難しい状況です。

■ モニタリングの総合コメント

菊川堆肥センターの設置目的は、地域の有機性資源の有効活用に努め、環境の保全及び土づくりによる地力の増進を図り、もって環境保全型農業の振興に供するためのものです。その管理運営業務の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施については、適切に行われていることから、この点については、良好と評価します。

各業務内容についても、法令等を遵守し、募集要項、仕様書等に定める業務が適正に実施されていました。また、経費について、指定管理者において様々な努力や工夫等、経営努力が行われた結果、収支結果はぎりぎり適正な範囲内であるといえ、厳しい環境の中で、サービス向上に努めつつ、経費節減、業務合理化が行われた点で大変健闘しているといえます。

ここで生産された堆肥は、菊川地区内で大変好評裏に流通・消費されており、堆肥の需要は、今後もますます増えるものと予想され、当該施設においても、これに応える形で、今後も着実に設置目的を果たしていくことが求められているところです。

しかしながら、当該施設の管理運営について客観的に判断すれば、現在の状況は経営的に、殆ど綱渡りの非常に危ういものであるといえ、今後も予想される搬入量の減少に伴う収入の大幅減に対し、年々増大していく経費とのバランスを保っていくことは非常に困難であり、このことが、個々の業務の執行に関して今後少なからず悪影響を及ぼすことになることは容易に予想がつくことから、利用料金制という現在の枠組みの中では、当該施設の存続を行っていくことはほぼ限界に来ているものと判断しているところです。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

今後は何よりも、当該施設の存続維持のために、新しい利用者の開拓と原材料の確保に努めることが、一番の優先課題だということにつきます。菊川町はもとより、町外からも広く搬入が行われるよう、PRに努めていくことが肝要と思われます。

その上で、従来どおりの業務・サービスの更なる充実と、利用者が安心して利用ができる施設づくりに努めていくことを期待します。

ソフト面では、堆肥の品質向上に努めるなど利用者の声を反映した製品ができるよう、より一層の努力の継続を求めます。

ハード面では、利用者からの大きなクレームもないことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努力することを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

堆肥センターの運営企画及び維持管理等について、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設の効用については、厳しい農業情勢の中、原料搬入量、生産量とも減少が続いています。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

畜産農家の排出する家畜排せつ物を受け入れ、良質有機堆肥の製造、また、これらに係わる施設運営に関する業務を事業計画に則って適切に実施していました。堆肥の処理生産量、利用料金などから考えても適切に運営された結果であると考えます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

職員の勤務体制や利用時間を遵守し適切に運営していました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、迅速かつ前向きに捉え、検討し、その改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について概ね適正に処理され、経理関係調書も整理保管していました。

施設の利用に関する許可申請書、保守点検等に関する報告書類も整理保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検等も適切に実施していました。

社会性(環境等への配慮)

洗車の際に発生する排水の再利用を実施していました。

事業収支

経済性

事業収支について、ほぼ当初計画の範囲内において適正に執行していました。収支についても経営努力により、ほぼ収支均衡となるレベルであると認めます。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、財務状況については、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和3年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川堆肥センター
所在地	下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地 1 7
指定管理者	名 称 山口県酪農農業協同組合
	代表者 代表理事組合長 原田康典
	住 所 下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地の 3
モニタリングの 実施方針・方法 等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、運営会議、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後指定管理者の選定に用いた選定基準等に表示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所建設農林課
	T E L : 0 8 3 - 2 8 7 - 4 0 0 8
	E - m a i l : kgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標:施設の堆肥原料搬入量

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
目標値	900	360	330	-	-	1,590
実績値	357	237	-	-	-	594
差	△ 543	△ 123	-	-	-	△ 666

指定期間初年度（令和2年度）より既に、目標値未達の状態ですが、令和3年度についても、目標値の大幅な下方修正にもかかわらず、クリアすることができませんでした。ここ数年来続く堆肥原料の搬入量の低落傾向には、菊川町内における畜産農家の廃業続出という厳しい畜産環境が根底にあるため、この傾向に歯止をかけ、実績を増加に転ずるのは大変困難であると言えます。

■ モニタリングの総合コメント

菊川堆肥センターの設置目的は、地域の有機性資源の有効活用に努め、環境の保全及び土づくりによる地力の増進を図り、もって環境保全型農業の振興に供するためのものです。その管理運営業務の実施状況については、施設の設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしています。また、施設の維持管理、業務の実施、事業の実施については、適切に行われていることから、この点については、良好と評価します。また、各業務内容についても、法令等を遵守し、募集要項、仕様書等に定める業務が適正に実施されています。

ここで生産された堆肥は大変評価が高く、菊川地区内で順調に流通・消費されており、当該施設としてみれば、これに應える形で、今後も着実に設置目的を果たしていくことが求められているところです。

一方で、当該施設の運営については、前年度に続き、端的に言えば経常的経費に見合う収入が確保できていない赤字経営となっており、この状態が今後も続くとなれば、各業務の執行に様々な支障を及ぼし、所期の目的達成どころか事業継続すらも覚束ない危ういものとなります。内外の厳しい運営環境の中で、施設休止の事態を回避し、持続的・安定的な運営を行っていくために、収入の増加（搬入量の確保）を最優先課題として、さらなる経営努力、創意工夫に積極的に取り組んでいくことを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

今後は何よりも、当該施設の存続維持のために、新しい利用者の開拓と原材料の確保に努めることが、一番の優先課題だということにつきます。菊川町はもとより、町外からも広く搬入が行われるよう、PRに努めていくことが肝要と思われます。

その上で、従来どおりの業務・サービスの更なる充実と、利用者が安心して利用ができる施設づくりに努めていくことを期待します。

ソフト面では、堆肥の品質向上に努めるなど利用者の声を反映した製品ができるよう、より一層の努力の継続を求めます。

ハード面では、利用者からの大きなクレームもないことから、指定管理者の努力により良好な水準を維持していると判断します。今後も良好な水準を保つよう努力することを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

堆肥センターの運営企画及び維持管理等について、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設の効用については、厳しい農業情勢の中、原料搬入量、生産量とも減少が続いています。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

畜産農家の排出する家畜排せつ物を受け入れ、良質有機堆肥の製造、また、これらに係わる施設運営に関する業務を事業計画に則って適切に実施していました。堆肥の処理生産量、利用料金などから考えても適切に運営された結果であると考えます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

職員の勤務体制や利用時間を遵守し適切に運営していました。施設の維持管理についても計画通り実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、迅速かつ前向きに捉え、検討し、その改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について概ね適正に処理され、経理関係調書も整理保管していました。

施設の利用に関する許可申請書、保守点検等に関する報告書類も整理保管していました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検等も適切に実施していました。

社会性(環境等への配慮)

洗車の際に発生する排水を、タンク貯留して堆肥への散布水として使用するなど、資源再利用・環境への配慮のための工夫が見られました。

事業収支

経済性

事業収支については、損益分岐を超えて、一方的な収入(利用料)不足のため、安定経営どころか、事業の継続自体が危ぶまれる状態であるといえます。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、財務状況については、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和4年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川堆肥センター		
所在地	下関市菊川町大字久野１０５５６番地１７		
指定管理者	名 称	山口県酪農農業協同組合	
	代表者	代表理事組合長 原田康典	
	住 所	下関市菊川町大字久野１０５５６番地の３	
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に表示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントした上で、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。		
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所建設農林課		
	ＴＥＬ： ０８３－２８７－４００８		
	Ｅ－ｍａｉｌ：kgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp		

■ 目標値の達成度

□指標：施設の堆肥原料搬入量

(単位：トン)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	900	360	330	2,588	-
実績値	357	237	180	-	-
差	△ 543	△ 123	△ 150	-	-

指定期間初年度（令和2年度）より既に、目標値未達の状況ですが、令和4年度についても、目標値の下方修正にもかかわらず、達成することができませんでした。ここ数年来続く堆肥原料の搬入量の減少傾向には、菊川町内における酪農家の廃業などの厳しい畜産環境が背景にあります。

令和5年度には新規牧場が稼働し、そこからの原料搬入が見込まれるため、目標値を大幅増に設定しています。

■ モニタリングの総合コメント

菊川堆肥センターの設置目的は、地域の有機性資源の有効活用に努め、環境の保全及び土づくりによる地力の増進を図り、もって環境保全型農業の振興に供するためのものです。管理運営業務の実施状況について、その設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしているといえます。

施設の維持管理、業務の実施等については、法令及び条例・規則を遵守し、協定書、仕様書等に定める業務が適正に実施されていました。

一方で、当該施設の収支については、収支均衡とはいえない状況が続いています。

酪農家の廃業に伴う原料持ち込み量の減少など内外の厳しい情勢の中で、収入の増加（搬入量の確保）は最優先課題となっているところですが、令和5年度には新規牧場の稼働という明るい材料もあり、これを好機として業績の改善に繋げ、併せて経営努力、創意工夫にも取り組みながら、持続的・安定的な運営に努めていくことを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和5年度からの新規牧場の稼働に伴い、原料搬入量の急増が見込まれるため、これに対応した受け入れ体制の整備・充実を図ることが求められます。従来とは異なるレベルの量の、スムーズかつ継続的な処理が可能となるよう、機械・車両の点検、人員の増員配置、搬入者との綿密な調整など、ハード・ソフト面にわたる適正な見直しを行い、万全な体制が築かれることを期待します。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

堆肥センターの運営企画及び維持管理等について、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設の効用については、酪農家の廃業などの影響により、原料搬入量、生産量とも減少が続いています。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

畜産農家の排出する家畜排せつ物を受け入れ、良質有機堆肥の製造、また、これらに関わる施設運営に関する業務を事業計画にのっとり適切に実施していました。堆肥の処理生産量、利用料金などから考えても適切に運営された結果であると考えます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

職員の勤務体制や利用時間を遵守し適切に運営していました。施設の維持管理についても計画どおり実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、迅速かつ前向きに捉え、検討し、その改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出についておおむね適正に処理され、経理関係調書も整理保管されていました。また、施設の利用に関する許可申請書、保守点検等に関する報告書類も整理保管されていました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検等も適切に実施していました。

社会性(環境等への配慮)

洗車の際に発生する排水を、タンク貯留して堆肥への散布水として使用するなど、資源再利用・環境への配慮のための工夫が見られました。

事業収支

経済性

事業収支については、経常的経費に対する一方的な収入不足により、収支均衡には至りませんでした。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、財務状況については、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和5年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川堆肥センター
所在地	下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地 1 7
指定管理者	名 称 山口県酪農農業協同組合
	代表者 代表理事組合長 原田康典
	住 所 下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地の 3
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に表示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントした上で、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所建設農林課
	T E L : 0 8 3 - 2 8 7 - 4 0 0 8
	E - m a i l : kgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の堆肥原料搬入量

(単位：トン)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	900	360	330	2,588	1,740
実績値	357	237	180	705	—
差	△ 543	△ 123	△ 150	△ 1,883	—

令和5年度からの新規牧場の稼働に伴う、原料搬入量増を想定し目標値を大幅に増加した値に設定していましたが、新規牧場からの原料搬入量が想定よりも少なく、目標値を達成することができませんでした。

令和6年度は令和5年度の実績値も考慮し、目標値を設定しています。

■ モニタリングの総合コメント

菊川堆肥センターの設置目的は、地域の有機性資源の有効活用に努め、環境の保全及び土づくりによる地力の増進を図り、環境保全型農業の振興に供するためのものです。管理運営業務の実施状況について、その設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしているといえます。

施設の維持管理、業務の実施等については、法令及び条例・規則を遵守し、協定書、仕様書等に定める業務が適正に実施されていました。

収支については、利用料金収入が増えたことにより、ほぼ収支均衡となるレベルとなりました。

酪農家の廃業に伴う原料搬入量の減少など内外の厳しい情勢の中で、収入の増加（搬入量の確保）は最優先課題となっていたところですが、令和5年度からは新規牧場の稼働により収入も増加傾向にあります。これを業績の改善に繋げ、さらなる経営努力、創意工夫にも取り組みながら、持続的・安定的な運営に努めていくことを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

令和5年度からの新規牧場の稼働に伴い、原料搬入量が増加しており、令和6年度はさらに増加が見込まれるため、これに対応した受け入れ体制の整備・充実を図ることが求められます。令和5年度は増加した原料の処理対応ができていない状況もあったため、今後は、機械・車両の点検、人員の増員配置、搬入者との綿密な調整など、ハード・ソフト面にわたる適正な見直しを行い、スムーズかつ継続的な処理が可能となるよう、万全な体制が築かれることを期待します。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

堆肥センターの運営企画及び維持管理等について、施設の設置目的に沿った実施方針に基づき適切に運営していました。施設の効用については、酪農家の廃業などの影響により、原料搬入量、生産量とも減少が続いていましたが、令和5年度からの新規牧場の稼働に伴い、原料搬入量は増加しています。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

畜産農家の排出する家畜排せつ物を受け入れ、良質な有機堆肥の製造、また、これらに関わる施設運営に関する業務を事業計画にのっとり適切に実施していました。堆肥の処理生産量、利用料金などから考えても適切に運営された結果であると考えます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

職員の勤務体制や利用時間を遵守し適切に運営していました。施設の維持管理についても計画どおり実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、迅速かつ前向きに捉え、検討し、その改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について適正に処理され、経理関係調書も整理保管されていました。また、施設の利用に関する許可申請書、保守点検等に関する報告書類も整理保管されていました。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検等も適切に実施していました。

社会性(環境等への配慮)

洗車の際に発生する排水を、タンク貯留して堆肥への散布水として使用するなど、資源再利用・環境への配慮のための工夫が見られました。

事業収支

経済性

事業収支については、利用料金収入が増えたことにより、ほぼ収支均衡となるレベルとなりました。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、財務状況については、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。

令和6年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	下関市菊川堆肥センター
所在地	下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地 1 7
指定管理者	名 称 山口県酪農農業協同組合
	代表者 代表理事組合長 原田康典
	住 所 下関市菊川町大字久野 1 0 5 5 6 番地の 3
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認に当たっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に表示された項目ごとに、次葉のとおり、具体的な業務の実施状況等についての確認結果をコメントした上で、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	菊川総合支所建設農林課
	T E L : 0 8 3 - 2 8 7 - 4 0 0 8
	E - m a i l : kgnourin@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

■ 目標値の達成度

□指標：施設の堆肥原料搬入量

(単位：トン)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	900	360	330	2,588	1,740
実績値	357	237	180	705	1,458.5
差	△ 543	△ 123	△ 150	△ 1,883	△ 281.5

令和5年度から酪農を開始した牧場での飼養頭数の増加に伴い、搬入量も大幅に増加しました。飼養頭数も一定に達し、これ以上の増加の予定はないため、令和7年度以降は同程度の搬入量となる見込みです。

■ モニタリングの総合コメント

菊川堆肥センターの設置目的は、地域の有機性資源の有効活用に努め、環境の保全及び土づくりによる地力の増進を図り、環境保全型農業の振興に供するためのものです。管理運営業務の実施状況について、その設置目的を達成しながら、指定管理者制度導入の目的である市民サービスの向上を果たしているといえます。

業務の実施等については、協定書、仕様書等に定める業務が適正に実施されていました。

施設の維持管理については、備品の車両において、本来、車検満了日までに車検を受けなければならないところ、実施されておらず、結果、車検切れの状態で作業員が運転をしてしまった事例があったため、今後はこのようなことのないよう、自動車検査証の満了日を随時確認できる再発防止対策をとるよう指定管理者に指示しました。

収支については、利用料金収入が増えたことにより、ほぼ収支均衡となるレベルとなりました。

酪農家の廃業が相次ぎ、原料搬入量の減少が続く中で、収入の増加（搬入量の確保）は最優先課題となっていたところですが、令和5年度から酪農を開始した牧場からの原料搬入により収入も増加傾向にあります。さらなる経営努力や創意工夫を重ねながら、持続的で安定した運営が続くことを期待します。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

原料搬入量が増加しており、令和7年度も同程度の搬入が見込まれるため、これに対応した受け入れ体制の整備・充実を図ることが求められます。今後は、関係者との連携を図りながら、スムーズかつ継続的な処理が可能となるよう、万全な体制が築かれることを求めます。

基本的な考え方(施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性

堆肥センターの運営企画および維持管理等については、施設の設置目的に沿った実施方針のもと、適切に運営していました。近年は酪農家の廃業等により、原料搬入量や生産量の減少が続いていましたが、令和5年度および令和6年度と2年連続で原料搬入量が増加しています。

業務内容

機能性・独創性(事業への具体的な取組み方)

畜産農家の排出する家畜排せつ物を受け入れ、良質な有機堆肥の製造、また、これらに関わる施設運営に関する業務を事業計画にのっとり適切に実施していました。堆肥の処理生産量、利用料金などから考えても適切に運営された結果であると考えます。

責任性・実行性(施設の運営体制や組織)

職員の勤務体制や利用時間を遵守し適切に運営していました。施設の維持管理についても計画どおり実施していました。また、利用者から出た意見・要望等についても、迅速かつ前向きに捉え、検討し、その改善に役立てていました。

明瞭性・規律性(適正な事務や経理)

利用料金などの収入、施設管理費等の支出について適正に処理され、経理関係調書も整理保管されていました。また、施設の利用に関する許可申請書、保守点検等に関する報告書類も整理保管されていました。

しかし、車両について、本来、車検満了日までに車検を受けなければならないところ、実施されておらず、結果、車検切れの状態で作業員が運転をしてしまった事例があったため、今後はこのようなことがないように、適正な事務の実行を求めます。

安全性(安全管理、緊急時等の対応)

利用者の安全を確保するための施設の保守点検等も適切に実施していました。

社会性(環境等への配慮)

洗車の際に発生する排水を、タンク貯留して堆肥への散布水として使用するなど、資源再利用・環境への配慮のための工夫が見られました。

事業収支

経済性

事業収支については、利用料金収入が増えたことにより、収支均衡するレベルとなりました。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務諸表等を分析した結果、財務状況については、特に大きな課題や問題はないため、経営状態は健全と判断しました。